

## 一宮巡詣記

橘三喜著 享保七(1722年)に岡田正利がまとめた写本  
「一宮巡詣記抜粹」より。

一六九六年(元禄九年七月)の項に、

廿九日丹波嶋にかゝりさい川を渡り善光寺町に留る 晦日  
善光寺を出戸隠山に赴く一里程過アラヤス村に飯繩の社有  
社領百石神主右近と云右の方飯繩山聳たり中程に本社あり  
此山の麓を三四里通り戸隠山テウ人町より一里ほど登り大明  
神へ参る峯の内に三十二の窟有山中白色の扉石又ハ指渡し  
八尺の鏡石あり、

戸隠三社

中院 思兼神  
奥院 多力雄神  
宝光院 表春命

外二両社

日御子社 五男神  
九頭権現 弁才天

日御子社領式百石神主上墅村の近所に住九頭権現本社より  
左脇岩穴をかこひたる社なり番の僧日御供を備ふ夜の八ツ  
時也蛇多出て供物を喰ふ古法変して替りたると見へたり縁  
起に有戸隠より柏原に出る所山野細道也暮かた柏原町に留  
る黒姫山飯綱山何れも戸隠の明神山と云傳

註1 戸隠三社

中院 思兼神  
奥院 多力雄神  
宝光院 表春命

「表」に「ヲモ」のルビ。

註2 高知県立図書館蔵の「一宮巡詣記抜粹」(DOI

10.20730/100064531)を国文学研究資料館で画像提

供(「一宮巡詣記抜粹」の85コマ目)。「諸国一

宮巡詣記」は「日本庶民生活史集成」二六巻にも翻刻がある。「飯繩の社」「右の方稻綱山簞たり」「黒姫山、飯繩山」と表記する。